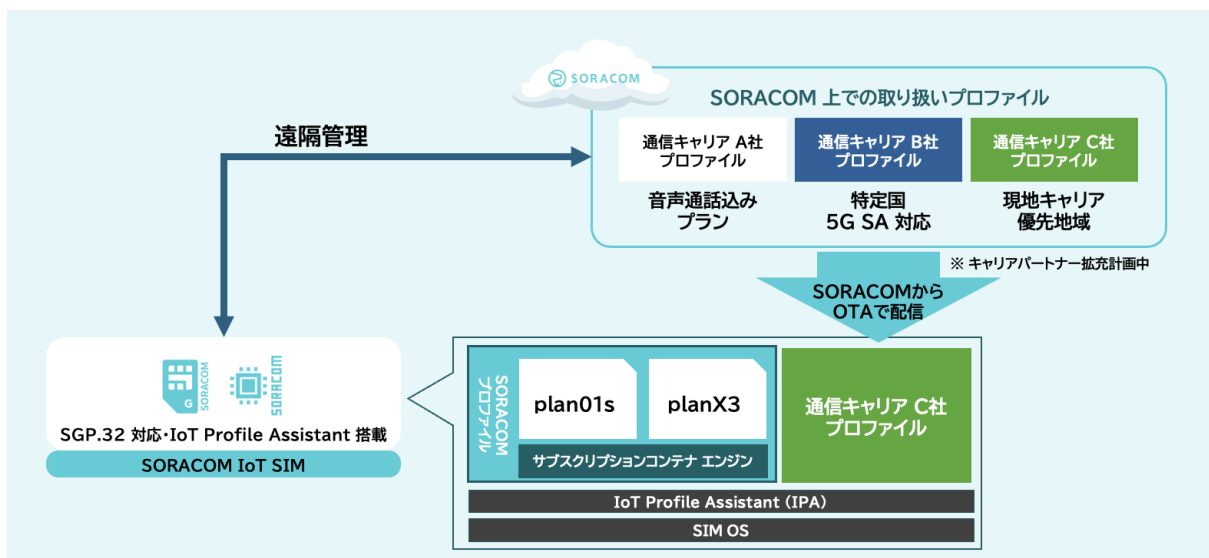


プロフィール管理基盤「SORACOM Connectivity Hypervisor」の 商用提供を開始、SGP.32対応IoT SIMの柔軟な運用を実現

出荷後もIoTデバイスの通信プロフィールをリモート追加・切り替えでき、
長期運用における通信の最適化を実現

株式会社ソラコム(本社:東京都港区、代表取締役社長 CEO 玉川 憲)は、1つのSIM上でSORACOMおよびパートナー通信事業者(MNO)のプロファイルのリモートでの管理・切り替え操作およびそれを自動化する機能「SORACOM Connectivity Hypervisor」を発表します。あわせて、GSMA(*1)が策定したIoT向けeUICCリモートプロビジョニング規格「SGP.32」に対応したSORACOM IoT SIM(*2)の商用提供を2026年7月7日より開始します。

これらの技術により、IoTデバイスは出荷後も必要に応じて通信プロフィールを追加・切り替えができるようになります。用途やサービス要件に応じた使い分け、通信の冗長化、各国の通信規制への対応など、長期的な変化に対応しながら、様々な国や地域で通信の利用が可能になります。



コネクテッドカーをはじめ、産業機器、決済端末、コンシューマーデバイスなど、グローバルに出荷され、長い製品ライフサイクルを持つIoTプロダクトが増えています。こうした製品の通信運用には、各国固有の規制や回線事情への対応が求められます。従来は、出荷先エリアごとにSIMを調達し、冗長化のために複数のSIMを搭載するなど、製造・物流から運用に至るまで大きな手間とコストがかかっていました。

また、製品寿命が10年以上に及ぶデバイスでは、出荷時点の通信構成だけでは長期運用に対応できません。法規制の変更や旧世代ネットワークのサービス終了、所有者の変更(例:自動車の中古車市場での流通)といった将来の変化に、出荷後でも対応できる仕組みが求められています。このような背景から、長期にわたって稼働する製品では、SGP.32対応がエンタープライズおよび自動車分野の調達で必須要件になりつつあります。

SGP.32は、GSMAが策定した次世代のeUICCリモートプロビジョニング規格です。物理的なSIM交換や人が直接操作するインターフェースを前提としていた従来のプロビジョニング手法では対応が難しかったIoTデバイスを想定しています。サーバー側のeIM(eSIM IoT Remote Manager)とデバイス側のIPA(IoT Profile Assistant)の連携により、出荷後のデバイス上で通信事業者のプロファイルをリモート(OTA)でダウンロード・切り替え・管理できます。

SORACOM Connectivity Hypervisorは、SGP.32に準拠しながら、お客さまがSORACOMのeUICC上のプロファイルを自在に追加・切り替え・管理できるオーケストレーション機能です。ユーザーコンソールやAPIで、SORACOM IoT SIMに追加プロファイルをダウンロードしたり、切り替えたり、主プロファイルが利用できない場合に使用するバックアッププロファイルを選択するといった操作が可能です。本機能により、お客さま自身で利用目的や対象国に応じて必要なプロファイルを追加・管理したり、その運用を自動化することができます。

これまで出荷先や商流ごとに複数のSIMを使い分ける必要があったような場合でも、単一のSKUで利用する通信事業者を切り替えられます。障害に備えて複数のSIM搭載が必要であった機器は、単一のSIM/eSIMで通信ネットワークの冗長化が可能になります。また、5G SAや今後の新規格への対応だけでなく、旧世代ネットワークのサービス終了など既存プロファイルでは対応できないケースでは、IoTデバイスを回収することなくリモートからプロファイルを追加して切り替えられ、長期運用に備えられます。また、パーマネントローミング規制が現在課されている国はもちろん、将来の法規制の変更にもデバイスの回収なしで対応できます。

Connectivity Hypervisorを利用可能なSGP.32対応製品は、SIMカード(物理SIM)およびeSIM(組み込み型SIM)の両方のフォームファクターに対応しています。コネクテッドカーから産業機器、スマートメーター、コネクテッド医療機器、アセットトラッキング機器、決済端末まで、グローバルに展開するプロダクトの通信運用を支えます。また、通信をプロアクティブに制御したい機器メーカー、自社で通信を主体的に扱うルーターベンダーや通信サービスを再販するパートナーにとって、大きな価値を発揮します。

SORACOMに統合された公式パートナー通信事業者のプロファイルは、SORACOMユーザーコンソールから、SORACOMのプロファイルと同等に管理できます。SIMプロファイルのライフサイクル管理、データ使用量のモニタリング、タグやグループによる検索といったフリート管理機能を利用できます。

「私たちは、市場が求めるよりも前から、Connectivity Hypervisorの構想を進めてきました。初期から、どのSIMプロファイルを、どこで、いつ使うのかは、お客さま自身がコントロールできるべきであると考えていたからです。SGP.32対応SIMの出荷開始により、お客さまは、SORACOMのSIMやeSIMを搭載することで出荷先や商流、ユースケースなどに応じて適切な

プロフィールを追加・切り替えできます。単一のSKUでお客様のプロダクトを長期にわたって Future Proofにできます。

また、複数事業者のプロファイルを管理運用することで更にお客様の負担を増やしてはならないこともわかっています。そのため、パートナー通信事業者様のプロフィールに関してはSORACOMのAPIやコンソールで管理可能にし、多数のデバイスと複数のプロフィールを大規模に運用されるお客様にとっても使いやすいプラットフォームを提供していきます」

株式会社ソラコム 最高技術責任者 CTO 安川 健太

SORACOMは、通信事業者の垣根を越えてプロフィールを統合管理し、IoT通信におけるプロフィールの基盤層となる「Hypervisor」としての役割を果たすことで、より開かれたIoTエコシステムの実現を目指します。

(※1) 携帯電話事業者の業界団体「GSM Association」の略称で、750社以上の携帯電話事業者に加えて、およそ400社の通信機器ベンダーや端末メーカーなどのモバイル関連企業が参加する業界最大の団体。

(※2) 次世代eSIM規格「SGP.32」対応のIoT SIMを共同開発(KDDIと共同発表 7/1)

SGP.32対応SIMおよびプロフィール管理機能について

提供開始日

2026年7月7日

サービス利用方法

サービスの利用にあたっては、SGP.32対応SIMが必要になります。



<SGP.32対応のSORACOM IoT SIMは、カード型、チップ型で提供される>

プロフィール管理機能は、SORACOMプラットフォーム「SORACOM Connectivity Hypervisor」として提供されます。SORACOMユーザーコンソールから操作可能です。

利用には事前申請が必要です。ご希望の方は、以下よりお問合せください。

<https://soracom.jp/contact/>

ソラコムについて

AI/IoTプラットフォームSORACOMは、世界200以上の国と地域でつながるIoT通信を軸に、IoTを活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供しています。製造、エネルギー、決済などの産業DXから、イノベーティブなスタートアップ、農業や防災など持続可能な地域社会を支える取り組みに至るまで、さまざまな業界・規模のお客さまにご活用いただいています。

ソラコムコーポレートサイト <https://soracom.com>

ソラコムのIRサイトでは、決算情報・IR資料など、株主・投資家様向け情報を掲載しています。

IRサイト <https://soracom.com/ja/ir>

シェアードリサーチレポート: <https://sharedresearch.jp/ja/companies/147A>

ソラコムIR公式note: https://note.com/soracom_ir

IRニュースレター登録: <https://soracom.com/ja/ir/newsletter>

本ニュースに関するお問い合わせ

株式会社ソラコム 広報

担当: 田淵

pr@soracom.jp